

海外銅など、欧米金融政策がカギ

橋本健一郎氏
橋本金属
・アルミ
橋本健一郎氏リポート①

橋本健一郎氏

十一月前半は、資源大手グレンコアの銅減産が四万五トンまで拡大する旨を発表したところ、ECBの追加金融緩和予想、などのプラス材料もあったが、中国の第一三次五カ年計画(二〇一六―二〇二〇年)の声明でGDP目標は六・五%成長と改めて景気後退が浮き彫りになった事、十月の中国社会融資総量は前月比六三%減の四、七六七億元で二〇一四年七月以来の低水準。前月は一兆三、〇〇〇億元。与信低迷。一〇月の中国鉱工業生産は前年比五・六%増、予想は五・八%増などを受けてLME銅相場はDOWN、十一月一日四時点で四、八二五ドル(セツル)と月初価格より三一・二・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、中国の大手銅製錬一〇社(江西銅業、雲南、金川など)が二〇一六年に三五万トンの協調減産を行うことで合意したと発表したこと。減産と同時に政府に備蓄購入も呼びかけていることなどのプラス材料もあったが、バリ同時多発テロやチリ・コデルコの中国向け銅のプレミアムが二六%下げの九八ドルと六年ぶりの安値に落ち込んだこと、十一月の中国製造業PMIは四八・六に上昇も九カ月連続で五〇割れだった事を受けてDOWN、十二月一日現在、後半スタート価格から一六九・五ドルDOWNの四、五九五・五ドル。銅建値六一万円のスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)

一・二一・七二→一・二四・〇七(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一〇・五%の八一万七、〇八〇台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・三%増の二二万九、八一五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一二・五%の七万七、一五三戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

銅スクラップの発生減が続く

気銅が一五・八%減の三万二〇九t、スクラップが一三・九%減の二万五、三〇二t。

輸入

輸入は電気銅が前年比七・一%増の三、六一二t、スクラップが六四・八%増の九、八四五t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一〇%減の六万五、三五〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比四・四%減の六万四、二〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

十月の四輪車生産台数は八一万三、一一〇台で、前年同月の八一万七、〇八〇台に比べて三、九七〇台・〇・五%の減少となり、一六カ月連続で前年同月を下回った。

十月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車六八万九、九二九台で五、九五一台・〇・九%の増加となり、一六カ月ぶりにプラス。このうち普通車は四三万二、二七四台で三万四、七一九台・八・七%の増加、小型四輪車は一三万五、六〇三台で四、八〇一台・三・四%の減少、軽四輪車は一二万二、〇五二台で二、三、九六七台・一・六、四%の減少。

十月の国内需要は三八万〇、〇八九台で、前年同月比四・一%の減少であった。うち乗用車三一万五、一九二台で前年同月比四・〇%の減少、トラック六万三、八七五台で同五・〇%の減少、バス一、〇二二台で同八・三%の増加。

輸出は前年同月比三・八%の増加。(実績)

【自動車販売】

十一月の国内自動車販売台数(軽除く)は二二万九、八一五台で前年比〇・三%増。二カ月連続プラス。うち乗用車〇・四%減、貨物三・九%増、バス二・〇・四%増。

【住宅着工数】

平成二十七年十月の住宅着工戸数は七万七、一五三戸で、前年同月比で二・五%減となった。また、季節調整済年率換算値では八六・二万戸(前月比四・三%減)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比では持家で増、貸家、分譲住宅で減となった。季節調整値については、前月比では分譲住宅で増、持家、貸家で減となった。(六面へ続く)

【四面より続く】

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一〇%減の六万五、三五〇tと八カ月連続マイナス。このうち、内需五万四、四〇二tで八・二%減と一二月連続マイナス、輸出一万〇、九四八tで一七・九%減と四カ月連続の二桁マイナス。品種別では、銅条は一万九、八九八tで一四・三%減と六カ月連続マイナス、黄銅棒一万五四〇七t・一・五%減と一五カ月連続マイナス。

【輸出】電気銅輸出が前年比一五・八%減の三万〇、二〇九t。銅スクラップは一三・九%減の二万五、三〇二t。

【輸入】電気銅が七・一%増の三、六一二t、スクラップは六四・八%増の九、八四五t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の〇・五%減。十一月の国内販売台数が前年比〇・三%増。生産が一六カ月連続マイナス、販売が一二月連続プラス。

生産が一周年以上前年割れとなったが減少幅は縮小。販売の方が微増ではあるが一二月連続プラスに。今後販売のプラスが続くか注視が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で八カ月ぶりの減少となった。分譲マンションについては前年同月に大規模物件の着工が多くあったことが要因である。貸家の着工については六カ月ぶりの減少となったが、依然三万戸を超える水準で推移しており、堅調を維持している。一方、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が大きかった持家は前年同月比で六か月連続の増加となるなど、全体として持ち直しの傾向が続いている。引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は八カ月連続マイナスの前年比一〇%減。昭和五十七年十月以来の低水準。需要の多い銅条が、六カ月連続マイナス。黄銅棒が一五カ月連続マイナス割れ、輸出も前月に続き減少が続く四カ月連続二ケタマイナス。輸出が七カ月連続マイナスの一七・九%減。伸銅品生産は輸出に支えられてきた面もあり今後の輸出動向注視。

・電線は輸出が五カ月連続二桁減少。期待の建設電販のマイナスを受けて全体として減少。

・銅輸出は生産減少による国内玉の不足から地金、スクラップ共に内需の発生難を受けて減少した。

・銅輸入は、生産減少に生産減少による国内玉の不足から地金、スクラップ共に内需の発生難を受けて減少した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、バリ同時テロやトルコ軍のロシア機撃墜などの地政学リスクを受けての価格の急落から塩漬け状態。

伸銅品生産の低調。伴う発生薄のトレンドは変わらな上記理由による玉不足から需給は引き締まっているのではない。

【価格・為替予想】

今月は、ECBの金融緩和時期と米国の利上げ問題に左右される。

ECBの金融緩和に関してはドラギ総裁が前回十月の会合後、「十二月の理事会で金融緩和策の度合いを見直す必要がある」と表明。その後も積極発言を繰り返し、ECBが追加緩和に踏み切るのにはほぼ確実な情勢ではないか？

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が十二月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。

それらを踏まえた十二月の銅価格は、ECBが追加的金融緩和を行い、米国が今月の利上げを行わなかった場合、十一月高値の一段下四、七〇〇ドルを予測。いずれの場合も達成できなかった場合、十一月も一段安値の四、四〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに十二月説が台頭している。ECBは追加金融緩和に前向きなことを考えれば利下げの可能性はある。

それらを踏まえ予測は、上値はアメリカが十二月の利上げを示唆し、ECBが追加金融緩和をした場合、新興国からの資金吸い上げそれに伴うドル口安ドル高の加速判断から大幅円高の一・九円台を予測。下値は利上げを行わなかった場合ほぼ現状と変化なしとの判断から一二二円台。

銅建値に関しては五七〇〇〜六四〇〇円程度と予測している。

十二月自動車販売一・三%増

米調査会社オートデータは二日、暫定値だった十一月の米新車販売台数について、一三一万九、九一三台から一三二万九、二九九台に修正すると発表した。前年同月比の増加率は一・四%から一・三%となる。

前日発表の同統計では、未発表だった独メルセデス・ベンツを推定値で集計したが、正式データを反映させた。季節要因を調整した年換算は一、八一九万台で変わらなかった。